慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本語教師としての第一歩
Sub Title	
Author	呉, 雨(Go, U)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2022
Jtitle	日本語と日本語教育 No.50 (2022. 3) ,p.97- 99
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	刊行50周年 特集：修了生の現在 〔日本語教育の現場から〕5
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20220300-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』50：97–99（2022.3）

日本語教師としての第一歩

呉　　雨

私は 2016 年 4 月から 2018 年 3 月まで、慶應義塾大学文学研究科に入学し、国文学専攻日本語教育分野修士課程で学んだ。修士課程を修了した後、國學院大学文学研究科文学専攻日本語教育コース博士課程後期に進学し、2021 年 3 月博士号を取得した。同年 9 月からは中国重慶交通大学の日本語専任講師として勤務することになった。重慶交通大学では在籍学生数はおよそ 2 万 8 千人であり、交通運輸学、土木工学、海洋河川学のほか、経済・管理学、外国語、人文学などの学部と大学院が設置されている。10 月には、博士論文をもとに、『ビジネス日本語における副詞』（郵研社）と題する学術書を刊行することができた。

日本語教師としてまだまだ未熟だが、今年度からは、『大学日本語』という学部の共通科目、『第二外国語』という大学院の選択科目、『中日翻訳』と『学術的文章の作成』との大学院専門科目の授業を担当することとなった。

数年前までは、中国の大学における日本語学習者は、主に日本語学科の学部生と院生だったが、現在は、共通科目の日本語の授業だけでなく、外国語学科を含めた全学科の第二外国語としての日本語の授業を受ける学生が激増している。その結果、日本語学習者の人数が多くなり、学習者の学歴も複雑になった。それとともに、それぞれの学習者向けの授業の設置、指導方法なども変えないといけない。

今担当している授業のうちに特にご紹介したいのは、「大学日本語」と「第二外国語」の非日本語専門学部生と院生向けの選択科目である。「大学

日本語」の授業は、高校で日本語を勉強していた学部生向けに設置された授業である。ここ数年、大学受験で英語ではなく、日本語を選んだ学生（いわゆる「日語高考生」）が急増したため、この授業を履修する学生の人数も数年前の 6 人から、2021 年の 60 人と 10 倍にも増加した。「第二外国語」の授業も、土木、交通、物流など外国語専門ではない学生が履修登録している。日本語への興味を持つ学生が増えたせいか、履修する人数も数年前の何十人規模から、2022 年は 300 人以上となった。

学生の人数が急増した結果、「大学日本語」の授業は 1 クラスから 2 クラスに、「第二外国語」の授業は 1 クラスから 4 クラスに増設され、同僚の先生とともに私もその 1 クラスを担当することとなった。何よりも、学生の日本語レベルにばらつきが見られる。教材の選定から、細かい指導方法まで、授業のコーディネートが必要とされる。授業の時間が限られているため、文字・語彙、文法、本文、会話、練習問題の項目に集中する。パワーポイントで文型の難しい箇所を示し、本文の内容に関連する日本社会、文化の紹介については写真、動画で展開していくようにしている。教学改革の試みとして反転授業などの導入も求められている。そのため、いかに学生一人ひとりの状況に応じた人気のある授業にすることが今の課題である。

大学院専門科目の授業では、学生の人数がそれほど多くないが、学生の需要に沿って授業の改善を工夫している。例えば、翻訳の授業では、翻訳の実践に基礎知識を取り入れ、日中の言語的慣習に相応しい訳文に翻訳させることに取り組んでいる。翻訳の授業で確実に翻訳の知識を身につけたと思われるよう、いくつかの翻訳の教科書を利用し、文学作品に限らず、記事、会話など、各文体で使われやすい実用性のある例を選定し、学生の進路を考慮した授業内容を設置する。今学期は就職希望の学生の要望に応えて、学期末の課題は日中の業務に現れそうな文章の翻訳にした。

教学のほか、研究し続けることも教師の日課である。学生時代は副詞に

ついて研究してきたが、いかに今後の研究課題として活かすかということを日々考えている。学生、学生の将来の就職先、教師、日本語学科、この四つを一つにまとめられる手がかりを詮索し、外国語教育、地域との共生、多言語社会への貢献など、さまざまな課題から時代に必要とされる課題を見出すことが、今日の中国の日本語教師が直面する最大の課題なのではないかと考えられる。

慶應在学中は日本語学、日本語教育に関する基礎知識と研究方法について学び、木村義之先生をはじめとした先生の方々に大変お世話になった。現在、日本語教育事業に携わることができたのも、慶應の先生方のご指導の賜物であると常に感謝している。

経歴

呉　雨（ゴ　ウ）
中国甘粛省出身
2015 年 7 月　大連海洋大学（中国）外国語学部日本語学科卒業
2018 年 3 月　慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野修士課程修了
2021 年 3 月　國學院大學大学院文学研究科文学専攻日本語教育コースより、博士（文学）の学位を取得し、博士後期課程修了
博士学位論文題目「ビジネス日本語における副詞の研究」
2021 年 9 月　重慶交通大学（中国）外国語学部日本語専任講師に就任
現在に至る